

論 說

道路改良に就ての常識的考察

東京商科大学教授 山内正瞭

一

輓近交通機關の發達に伴ひ、從來軌道に依るに非れば走り得なかつた交通用具も堅固なる道路面に於ては自由に疾走することが可能になつて來た。故に普通道路は其の築造を強固にすれば比較的多くの交通用具を受け容れることが出来るのであつて、此の點が普通道路の非常なる特色と謂はねばならぬ。即ち定つた軌道の上には蒸氣機關車を動かすことも電氣機關車を動かすことも出来



るが是は車輛の關係で限定されて居る。然るに普通道路は其の特色として斯る特殊の用具に限られることなく種々雑多な速力の異つたる交通用具が自由に疾走するのである。随つて必然的に交通上の障碍とか故障を生じ易い、其の結果として人道と車道とが區別され疾走車道と緩走車道とが區別されて居る。併しながら是は或る限定されたる場所に就て特に其の目標を示して居るのみであつて概して交通頻繁なる場所以外に於ては何等の制限なく殊に狹隘なる通路の上を速力の異つたる用具が走つて居る爲に一層事故が生じ易いのである。是が取締の必要なことは論を俟たぬが、同時に又道路改良の技術上に於ても大なる考究を要する問題である。所謂特別構造の通路を設け而も如何なる種類の用具も其の道路を利用し得るやうにしなければならぬ。是等道路改良の點に就ては技術者も既に着目して各々専門的研究に依つて着々實施されつゝあるのであるが吾々非専門家の立場から日常目撃して痛切に感じて居る常識的事柄を二三述べて見たいと思ふ。

二

先づ最初に摩擦を少くする事を考へなければならぬ。其の爲には交通用具である車輛に改良を加へなければならぬ點もあり、又道路をれ自身の上にも非常な改良を加へなければならぬ點のあることは謂ふまでもない。我國の田舎道は暫く別問題として、少くも吾々が日常目撃して居る市内道路に就て觀察する時に、或る場所には或る式に依る特殊の設備を爲し又他の或る場所には是と異つたる式に依る他の設備をして居る現状である。是は如何に試験時代であるとは謂へ路上交通物體

が同質同量であることに鑑み、其の統一が餘りに取れて居ないやうに感ぜられる。更に地中埋藏物の關係を觀てみると、其の所屬を異にして居る點である。一方に於ては、其の設備をする主體が公共團體であり、他方に於ては所謂國家事業として遞信省所屬のものもあり、内務省所屬のものもある。是が工事の施行に關しては統一連絡を取つて居らるべき筈であるに拘らず、充分其の連絡が取れて居ないやうに思はれる。是は吾々素人として殊に其の方面の實情を調べて居ない者が斯る事を云々するは甚だ僭越ではあるが、或は從來連絡が取れて居るものであるならば、尙一層連絡を良くして貰ひたいと思ふ。又改造が出来ない爲に往々交通事故を生ずる爲に、道路が如何なる用具でも受容れる特色を持つて居ながら充分に其の特色を發揮せしむることが出来ない狀況に或る程度迄なつて居はせぬかと思ふ。

三

次は經濟的問題である。是は専門的技術上の見地からのみでなく、吾々の日常生活に大なる關係がある。運搬費なるものが生産費の一部を形作つて居ることは謂ふまでもない。我國に於ては道路を走つて居る交通機關に依つて運ばれる運送賃が他の交通機關に依つて運ばれる運送賃より遙に高い、是には種々なる原因があるであらう。今尙全然人の力に依る交通用具があり、或は馬車、牛車の如く獸類とそれを監督する人に依つて初めて動く交通用具もある。是等の用具に依る賃銀が却て國有の通路である鐵道、貨物電車の運賃よりも遙に高いのであつて、是は吾々の日常生活に至大

の關係を有し將來大に考究を要すべき問題である。即ち運賃の低廉は生産費の低廉となり、生産費の低廉は延て日常生活費の低下となり吾々の日常生活に甚大の影響を及ぼすのである。故に是が低廉を圖ることは最も肝要である。其の爲には現在人の力に依らなければならぬものを機械の力に依つて運搬する交通用具に改むることも一つの方法である。路面を疾走する用具其ものに就ての専門的考究と共に、之に對應する路面の理學的研究に基く技術上の改良は必要とすることは謂ふまでもない。故に將來は道路建設の上になつて技術的改良を要すると同時に、市内の交通機關は如何なる用具に依つて運搬したならば最も低廉に且つ交通上大なる事故を生ずることなく而も市の美觀を害せず、少くも其の交通機關の街路を疾走する事に依つて市民に悪感情を抱かしめざる程度の交通機關は如何なるものであるか、斯る點に就て最も考究を要すべきである。之に就ては技術者の方面よりも提案があるであらう、又非技術者側の考もある。故に如何なる交通機關を本體として將來採用して行くかの先決問題を解決し、其の本體に基いて合理的に最も其の利用に適合する道路の設備を探ることが最も肝要である。路面の技術的方面よりすれば、前述の如く摩擦を少くして置く時は如何なる用具にも適用出来るが、併し人の力に依るものと馬力の非常に強い交通用具に依るものとは自ら道路の傾斜の度合等も異にしなければならぬ。故に道路の建設改良に當つては斯る點を考慮しなければならぬ。

之を要するに道路改良に當つては交通事故の可及的防止に努め且つ迅速正確を期すると同時に、市の美觀を害することなく市民に悪感情を與へざる程度の方法に依らなければならぬ。然らば如

何にしたならば其の趣旨に適つて行くことが出来るか。固より吾々素人として市内道路、市外道路、延ては農村道路等に就て具體的の方針は抱いて居ないのであるが、上述せる諸點を出發點として各行政機關が連絡を保ち其の調査の必要あるものは調査を遂げて行かなければならぬ。又改良方針に就ても其の局に當る者は從來に於ても確乎たる方針があるのであらうが將來は其の確乎たる方針に尙一層他の方面の意見も聽取して定めて行く必要がありはせぬかと思ふ。